

## 令和4年第3回西之表市議会定例会 基地整備計画への所信

馬毛島への基地整備計画に対し、地元首長としての私の考えを申し述べます。

昨年末、政府において、閣議決定を以て基地整備の決定と考える旨の説明がなされて以降、市民の不安と期待による混乱が続いてきました。この新たな局面にあたり、私は地元市長として、基地整備に同意するか否か、改めて検討してきました。

私が留意するのは、基地整備が市民の幸福をどう左右するかの一点です。

まず、私は、基地建設に賛同する市民を思います。自衛隊宿舎の誘致や各種交付金の活用を願う訴えが寄せられました。要望書には「一次産業はじめ経済状況は深刻であり、各種交付金で巻き返しを図りたい」旨の記述があります。また、今年も自衛隊に入隊する市内の若者たちが誇らしい表情を見せました。基地整備を通して国への協力を意識する市民もいます。

一方、基地建設に反対する市民がいます。先の戦争を体験した世代には、共栄の名のもとに戦争に突き進み、悲惨な結果に至った記憶があります。高齢者や障害のある人など、弱い境遇の人たちは特に騒音への不安が根強く、漁業者は豊かな漁場喪失を死活問題と心配しています。馬毛島の類い稀な自然、歴史文化遺産の喪失を惜しむ声も小さくありません。

どちらも、平穏な今の暮らしを保ちたいと念じつつ、子孫の幸福を願い、地域の将来を思い、結論としては180度異なる選択に至ろうとしています。

私は、まちづくりを思う、すべての市民に感謝します。国の整備計画を機に市の発展を求めている市民に。基地建設によって失うものに思いを致している市民に。そして、両方のはざまに判断に迷い、事態の行方を見守ろうとしている市民に。また、島出身者をはじめ、種子島を

愛する多くの皆さんに。地元選出国會議員ほか関係者の尽力にも心から感謝します。

もし、馬毛島に基地が建設されれば、軍事施設に無縁な土地としては、国内では初めての事例となります。今回、本市が整理した「市民の不安と期待に関する確認事項」への防衛省の回答を受けた説明会では、基地建設に期待の声がある一方、騒音への不安、漁場の喪失や基地建設後の操業に対する不安、地域振興策の将来世代まで含めた制度設計の要望、日米地位協定のあり方への疑問等の意見も出されました。環境影響評価（アセスメント）準備書への本市意見が、評価書にどう反映されるかも、しっかり確かめなければなりません。

他方、基地建設に係る予算が国会で承認され、本体工事着手への準備が進められています。不安解消等が未だ途上にある中、隊員宿舎や再編交付金等での国の動きに対応するために、一定の方向性を示さねばならない、次なる厳しい局面に迫られています。

加えて、勢力の拮抗する西之表市議会ほか、種子島の2町が賛意を示し、地域住民に賛否をめぐる多様な意見がある中で、1万5千市民の生命と暮らしを守る立場の市長として、基地建設のみが進み、負の影響のみを甘受する事態は避けなければなりません。

今、最も優先すべき私の使命は、市民の安心安全の確保と不安解消に全力を尽くすこと。かつまた、期待の声にこたえる最大限の努力を注ぐことです。

世界に目を向ければ、ウクライナや台湾等をめぐる情勢を背景に基地整備が説かれていることもあり、建設容認に傾いている市民も少なくありません。私はこうした趨勢だからこそ、かけがえのないこの島の平穏を守りたい。そう願う小さな声にも寄り添いたいと考えます。

これまで、不安や期待に関する確認事項への防衛省の真摯な回答を以てしても、残念ながら安心安全に関する諸課題はなお解決されていません。進行中の環境アセスも、環境保全措置が十分になされるかどうか、今後の注視が必要です。まだ市民の不安解消には至っておらず、現時点で、同意不同意が言える状況にはありません。

安全保障は国の専管事項ですが、「地元の理解を大切にす」との防衛大臣の言葉を思い起こします。私は、今後とも、市民の安全・安心を守る立場から、市民の不安と期待に対する、さらなる具体的な措置を講じるよう国に求めていきます。

また、わが国周辺の安全保障環境の状況か

ら、市民の意識にも変化があります。今後、国による馬毛島の基地整備計画の進展により、市に求められる行政手続き等があれば、適切に対応してまいります。

基地建設についての考えが、市民の間で大きく分かれていることは承知しています。しかし、今こそ、同じ土地に住む者同士、互いを尊重しつつ、力を合わせて難局を乗り切る覚悟が求められています。今日を懸命に生きる子どもからお年寄りまで、さらには未来の子どもたちが、安心して豊かに暮らせるまちづくりのために、ぜひ御協力くださるよう、議員各位、市民の皆様にお願ひし、馬毛島の基地建設に対する、現段階における私の考えと致します。

令和4年9月2日 西之表市長 八板 俊輔

## 西之表市と防衛省との協議の場報告（8）

9月5日（月）に第9回協議の場を開催しましたので、概要をご報告します。

### 第9回協議の場

【日時】令和4年9月5日（月）15：00から

【場所】西之表市役所

【概要】（以下市＝西之表市、防＝防衛省）

**防**：9月2日の市議会において、市長からは、「馬毛島の自衛隊施設の整備について、最も優先すべき使命は、市民の安心安全の確保と不安解消に全力を尽くすこと、かつまた、期待の声に応える最大限の努力を注ぐこと」、「その上で、今後、国による馬毛島の基地整備計画の進展により、市に求められる行政手続等があれば、適切に対応していく」との御発言があったと承知している。防衛省としては、先般の市長からの確認事項について、しっかりと受け止め、市民の期待に応え、不安を解消するための措置を積極的に講じるとの考えの下、回答したところであり、今後とも、市と意思疎通を図りながら、緊密に連携してまいりたいと考えている。

**市**：馬毛島小中学校跡地の扱い、市道認定の扱い、宿舎用地の扱いについては、これまで防衛省の意向はお聞きしていたが、更なる協議が必要と考えている。

**防**：本日の議題となっている3事案（馬毛島小中学校跡地の扱い、市道認定の扱い、宿舎用地の扱い）に係る防衛省の考えについては、繰り返し市にお伝えしてきた。本日は、改めて防衛省の考えをお伝えし、市の理解と協力を得たいと考えている。

#### 「馬毛島小中学校跡地の扱いについて」

**防**：防衛省としては、これまでもお伝えし、前回（本年7月）の第8回協議の場でも申し上げたとおり、馬毛島小中学校跡地を含め、馬毛島の全ての土地を取得することによって馬毛島基地（仮称）の安定的な運用を確保したいと考えている。馬毛島小中学校跡地は、環境アセスメントにおいて改変区域外となっはいるが、防衛施設として安定的に使用するために、是非、市の協力をお願いしたい。このような必要性につきご理解の上で、是非、馬毛島小中学校跡地の国への譲渡という形でご協力をお願いしたい。市が考えている子供の体験学習の場としての機能については、市とも調整しながら、葉山漁港周辺に交流の場を整備し、これらの活動が実施できるよう検討していきたいと考えており、また、譲渡いただいた場合、できる限り自

然に配慮し、シカの生息にも資する形での跡地利用を図ることとしたいと考えている。さらに、馬毛島小中学校敷地に所在する建物については、経年劣化による損傷が著しく、管理上の問題もあると考えているがいかがか。

**市**：馬毛島には小中学校の建物が残っており、これまで必要に応じて改修を行うなどして、体験学習の場として使いたいとの思いもあったが、他方で、大規模な改修又は建て替えは、財源の問題もありできていなかった。前回の第8回協議の場で、防衛省からは、「学校跡地については、シカ等の生息に対する配慮について、できる限りの対応をしていきたい」、「葉山漁港周辺に、種子島の住民と基地の交流の拠点となる施設を整備するというアイデアがあるのではないか。例えば、鉄砲館などと連携した自然や歴史、文化の保存、情報発信、また、種子島の小中学校や高校と連携した児童、生徒の体験・学習や自衛隊との交流といったアイデアが考えられる」とのお話があった。一方、馬毛島に愛着がある方もいるので、市としては、使用できるものは残したい。出郷者の愛着が極めて深いことも踏まえ、馬毛島小中学校の証（看板、机、椅子、図書や備品、工作物や校庭の記念碑等）や写真などの記録を展示することは可能か。また、自衛隊施設が整備され、管理用道路も整備された後において、安全性及び自衛隊施設の運用に支障のない範囲で、葉山漁港周辺の新しい交流施設等を拠点とした体験活動の延長として、旧学校跡地に立ち入ることは可能か。

**防**：ただいま提案された、馬毛島小中学校跡地に所在する建物について残せるものは残したいとお気持ちは理解する。葉山漁港周辺の新しい交流施設の建設に際して、一部の資材を再使用すること等については、老朽化が激しいといった現実の問題もあるが、今後、西之表市のご意見も伺いつつ調整してまいりたい。また、市が馬毛島小中学校の証（看板、机、椅子等）や写真などの記録を、葉山漁港周辺の新しい交流施設に展示したいとお考えであれば、今後、貴市から具体的なお話を伺った上で調整してま

いりたい。さらに、葉山漁港周辺の新しい交流施設の整備をどのように行っていくのか協議している段階であることから、旧学校跡地への立入りについては、現時点でのお答えを差し控える。

**市**：仮に、基地ができなかった場合又は基地が必要なくなった場合においては、西之表市が使用できるようにしてもらいたいと考えているがいかがか。

**防**：防衛省としては、馬毛島の自衛隊施設は、厳しい安全保障環境を踏まえれば、早期に整備する必要があり、また、学校跡地も、自衛隊施設の安定的な運用の確保のためには必要不可欠なものと考えていることから、その取得に是非ご協力をいただきたい。国有財産法上の一般論で申し上げれば、行政財産として取得し管理する土地の使用の必要がなくなった場合は、処分について検討されることとなるが、その際、地方公共団体の利用に関する意向を聞くこととなっている。

**市**：いずれにしても、防衛省からの説明等も踏まえ、どのような対応が適切なのか、しっかりと検討したい。

#### 「市道認定の扱いについて」

**防**：ぜひ、土地の譲渡については前向きな検討をお願いしたい。また、市道認定の廃止手続についてもなされるものと考えている。防衛省としては、馬毛島基地（仮称）の適正な管理のため必要な手続であると考えており、是非ご協力をお願いしたい。いずれにしても、学校跡地は改変区域外であり自然を残すこととしており、馬毛島における自衛隊施設の整備に関しては、環境アセスメントの手続完了後において着手するものであることを申し添える。

**市**：馬毛島島内には、他の者が所有する土地も存在しており、市道の取扱いについては、このような観点からの検討も必要となる。通行の確保については、確実にお願いしたい。

**防**：市道については、地元においても様々な議論があり、種子島島内にある市道の整備の促進を求める声があるものと承知している。

馬毛島の市道については、現実の問題として、

道路の形態・機能は失われている現状を踏まえれば、事実上、道路の整備や管理は不可能である。仮に整備を行うとすれば、多額の市費を投じる必要があると考えている。防衛省としては、タストン・エアポート社との土地取得交渉で、同社から、①市による市道の維持・管理は長らくなされておらず、同社が土地を取得する前に、既に市道としての形態・機能は失われており、通行できる状態ではなかった、②現在通行可能な道は、同社が土地取得後に整備したものであり、市道とは異なる、との説明を受けている。また、学校跡地と葉山漁港との間には、タストン・エアポート社が所有する土地が存在しており、現実の問題として、当該所有者の了解が得られなければ、立ち入ることは困難である。さらに、旧市道の敷地は、従前、西之表市が国から譲与を受けていたが、昭和 55 年頃以降、馬毛島が無人島となって荒廃が進み、昭和 61 年には、市が道路としての用途廃止を理由に敷地が市から国に返還され、その後、市が道路としての再利用を断念した経緯があり、道路としての用途が廃止されたことが明らかであると認識している。なお、馬毛島島内に土地を所有されている方で防衛省の土地を通らないと所有地に行けない場合には、防衛省としても運用上の所要等も勘案することになるが、できる限り通行の確保に協力していきたいと考えている。

**市**：市道に関して、用途廃止については、農道や用水路の再利用を断念した経緯はある。道路法上のことは整理が残っていると思っている。他方、市道の整備に関しては、市民の間でも様々な意見があると認識している。厳しい財政状況の中、市民のために何が必要か、何を優先すべきかを考えなければならないことも認識している。これらを踏まえて、検討をしていきたいと考えている。その上で、防衛省からの説明等も踏まえた上で、必要な行政手続等については、適切に対応していきたい。また、馬毛島島内の市道については現況調査ができていなかったこともあり、今後、市史編纂に際して、馬毛島島内の市道の歴史・経緯等について防衛省が

保有する資料があれば、提供いただきたいと考えており、資料がない場合には、調査に協力いただきたいと考えているがいかがか。

**防**：ぜひ市道認定の廃止についても、前向きな検討をお願いしたい。市史編纂に係る資料の提供及び資料がない場合の調査については、できる限り協力してまいりたい。

#### 「**宿舎用地の扱いについて**」

**防**：前回の協議の場において、隊員宿舎の整備についてご説明させていただいた。宿舎が整備され、隊員及びその家族が入居することになれば、彼らも住民として地域の一員となる。様々な機会に、地元の皆さまの、宿舎の設置による地域人口の増加、経済の活性化、地域活動への貢献などの効果に期待しているという声も耳にする。宿舎の設置を通じ、地域に様々な貢献ができるものと考えている。もとより、基地の円滑な運営のためには、隊員の安定的な生活が不可欠である。防衛省としては、これまでの調査を踏まえ、西之表市が保有する土地について宿舎整備が可能であると判断したところである。隊員の安定的な生活、そして馬毛島基地（仮称）の円滑な運営の確保という観点からも、農地法に基づく指定を解除した上で、西之表市の宿舎の用地の譲渡についてもご協力をお願いしたい。

**市**：宿舎については、市民の期待も高いものである。防衛省から説明のあった、馬毛島基地（仮称）の円滑な運営の確保という観点も踏まえ、馬毛島小中学校跡地の譲渡等と合わせ、どのような対応が適切か、検討していきたい。

**市**：最後に、議会の所信でも述べたが、基地建設に期待の声がある一方、騒音への不安、漁場の喪失が基地建設後の操業に与える不安などがある。環境影響評価準備書への意見がどう反映されるかもしっかり確かめなければいけないと考えている。引き続き、問題解決に向けた取組をお願いしたい。

**防**：引き続き、西之表市と連携し、しっかりと取り組んでまいりたい。

8月16日から22日にかけて開催した説明会における質問及び回答を市ホームページに掲載しています。